

自転車利用実態定点調査報告

平成27年7月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成27年6月23日
[午前]9:00～10:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前 (庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から70m程の上り坂)

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])
調査対象外(反対側上り歩道)



上り線車道	歩道	← }	対象外 対象 エリア
	←直進・右折レーン		
	←直進レーン		
	←左折レーン		
	←左折レーン		
	歩道	↑	
			白金幼稚園

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態調査結果報告書

時間	走行空間			乗車		乗次		危険運転行為					
	歩道	車道左側	車道中央	乗車	乗次	乗車	乗次	肩荷	片手	立ち漕ぎ	ハンドル	過積載	子乗せ
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													

調査日時：	月	日	時	分
天気：				
調査時間：				

＜調査票＞

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、21%であり、また、車道中央走行率も同様に、21%、依然、歩道を通行する自転車が多く、全体の約6割を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(23件)・片手運転・立ち漕ぎ(各3件)・ハンドルに荷物・過積載(各2件)・子乗せ後部席に荷物(*1)(1件)の順となっている。

*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の6/26午前)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

今回(21%)に対し、前回(20%)と、同様である。

上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・21%)に対し、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・9%)の、2倍強である。

・子乗せ自転車

今回(17%)に対し、前回(8%)の2倍強の水準
上り地点(17%)に対し、下り地点(18%)と同程度の水準

・電動自転車

今回(27%)に対し、前回(29%)と同程度の水準
上り地点(27%)に対し、下り地点(29%)と同程度の水準

・危険運転行為
(違反行為を含む) 上り地点の「肩に荷物・片手運転・立ち漕ぎ」に対し、
下り地点では「肩に荷物・立ち漕ぎ・片手運転」と、
同様の内容となっている。

なお、中央走行者については、依然として電動自転車を使用していない。

さらに、車道中央走行が多かった理由も、前回以前から同様に、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から道路中央を走行していたが、4車線での中間(両隣が2車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。